



自分にできることをみつけよう!

福井市総合ボランティアセンター

# そうぼら通信

2021

令和3年  
3月発行

Vol.20

## 子どもボランティア 支援校の取組み



ふくい市民活動  
基金で応援している  
小中学校の活動を  
紹介します



### 酒生小学校



学校でアイマスクを体験し、県立盲学校の先生の指導で、ボッチャやゴールボールなどのパラスポーツを体験しました。また、地域の福祉施設「足羽学園」について、職員の方からお話をお聞きしました。

学んだことや感じたことを新聞にまとめ、それを発表して共有することで、相手を思いやる心の大切さを全員があらためて感じる機会となりました。



### 六条小学校



地区社会福祉協議会が地域のお年寄りへ配布する、お弁当のメッセージカードを作りました。

また、車椅子バスケットを体験して、パラスポーツへの理解を深めました。

講師をお招きして実施した福祉学習と高齢者疑似体験では、地域のデイホーム訪問に向けて、お年寄りを思いやる気持ちや地域に貢献したいという思いがとても強くなりました。



### 一乗小学校



地域の方への日ごろの感謝や地域への想い、また一乗地区の観光客への歓迎の気持ちをメッセージカードに書いて、花鉢に添えて朝倉氏遺跡の施設や郵便局、特別養護施設などに贈りました。

また、日本遺産認定でつながった勝山市平泉寺小学校との交流の中で、おもてなしの心を学ぶことができました。朝倉氏遺跡では外来植物の除去作業も行いました。



### 文殊小学校



パラスポーツ選手の方と一緒に競技を楽しんだり、手話体験講座や総合ボランティアセンターで学習しながら、自分たちができるボランティア活動を考えました。校区の特別養護

老人ホームへ、メッセージカードとお花をもって訪問。利用者の皆さんが涙を流して喜ぶ姿を目にして、子どもたちは改めてボランティア活動の良さに気づくことができました。



### 上文殊小学校



バリアフリーやユニバーサルデザインについて、調べ学習を行いました。また、1人1つのプランターで大切に花を育て、笑顔になってほしいと思いを込めた手書きのメッセージカードを添えて、高齢者施設や社会福祉施設に寄贈する「フラワーギフト運動」を実施しました。

赤い羽根共同募金のポスターを作り、各教室に掲示して呼びかけました。



### 足羽第一中学校



公民館の協力で7つの地域ボランティア活動に取り組むことができました。地域の人から期待されていることを肌で感じるとともに、活動する自分たちの存在が地域に活力を与えることができることを実感しました。

また、総合ボランティアセンターの出前講座で、ボランティア活動について理解を深め、今後の地域活動への意識を高めることができました。





# ボランティアアカデミーを ふりかえって

ボランティアのきっかけとなる様々な活動を学ぶ、そうぼらのボランティアアカデミー。今年度各コースで行われた、楽しい学びや体験を紹介します。

## 多文化コミュニケーション



外国人市民とのコミュニケーションを深める、「やさしい日本語」について学ぶ4日間のコースに、10～60代の17人が参加しました。

ふくい市民国際交流協会の八原あかねさんから、福井に住む外国人の現状を学び、協会のしゃべり場コーディネーター



の東利子さんから、世界から見た福井の国際化と多文化共生や、「やさしい日本語」の必要性について学びました。

体験では、外国人市民の皆さんにも参加していただき、防災パンフレットやゴミ出し表、福井のおいしいものや観光地のポスターなどを、やさしい日本語に置き換えて作成しました。

参加者から、「日常生活の中で困っている外国人に出会ったら“やさしい日本語”で助けてあげたい」、「普段気づかない日本語の使い方を改めて考えることができた」、「外国人だけでなく、日本人にも伝わりやすい日本語を使うきっかけになる」といった感想がありました。

## ものづくり



がん患者への理解を深め、ものづくりを通じた支援活動を学ぶ4日間のコースに、10～60代の20人が参加しました。

ものづくりを通してがん患者支援を行っている「ものづくりクラブ」に協力していただき、抗がん剤の副作用によるしびれを緩和する小豆カイロを製作しました。

また、小児がん患者や家族をサポートしている、“がんの子どもを守る会福井支部”の坪田起久恵さんから、「小児がんへの想いとコロナ禍での新たな挑戦」のお話を伺った後、がん闘う子どもたちへ贈る紙コップのプラネタリウムを製作。

最終回は、ヨガインストラクターで乳がんの啓発活動を行っている高橋絵麻さんから、「つなげる想いとつながる心～届けたい虹色のメッセージ～」と題したお話を伺いました。

参加者から、「昨年がんで亡くなった実母に、小豆カイロを作ってあげたかったなと思いました」、「小児がんの子どもたちが、プラネタリウムで笑顔になってくれたらうれしいです」といった感想がありました。

## 生きるを伝える写真展

ものづくりコース期間中、「乳がんサバイバー」として県内外で講演などの活動を行っている、坂井市在住のヨガインストラクター高橋絵麻さんが立案した写真展を開催。高橋さんは、乳がんを患い闘病のなかで、ありのまま生きることの大切さを伝え続けたいと考え、「人生を楽しむ術(すべ)を共有しよう」という思いを込めてこの写真展を企画されました。抗がん剤の副作用などで髪を失った女性やその家族が「ありのまま」の姿で生きる姿、そして、その写真には「自分の胸に関心を持ってほしい」、「髪が無くても女性らしさは失われない」、「がんはつらいことばかりではないと伝えたかった」などのメッセージが添えられていました。





# パラスポ



また、スペシャルオリンピックスについて福井事務局長の北出久幸さんから学び、バドミントンチームと一緒に準備運動からシャトル拾いなどのボランティアを体験。さらに、卓球バレーについて、会場設営や競技ルール、ボランティアの内容を教わり、実際に競技を体験しました。にこにこクラブSUNFISH代表の市岡公子さんからは、団体活動とボランティアの役割について学びました。

参加者から、「知的障がい者の方と関わる機会ができ理解が深まった」、「障がいのある人たちと一緒にプレーできることに喜びを感じた」といった感想がありました。



# まちづくりイベント企画



参加者から、「損得勘定抜き的情熱のある、素晴らしい講師に巡り会い感謝」、「素人では到底分からないような知識を学べたのが良かった」、「これから自分が学んでいきたいことに直結していた」との感想がありました。竹本さんからは「自信を持ってプレゼンすれば、いいイベントには協賛がつく」と励ましの言葉がありました。

北陸新幹線開業に向けて、福井市中心部の活性化につながるイベント企画を考える講座。4日間のコースに、高校生や会社員など10～70代の17人が参加しました。

福井県まちづくりセンター代表理事の竹本祐司さんから、コンテンツや集客方法、デザインなどを学びました。

体験では、各自がイベントを企画。イベント名やキャッチコピー、デザインなど、広報物の制作や広報戦略、有効なSNSの使い方など、講師の個別指導を受けながら企画書を作成し発表しました。



# キッズサポートボランティア



木田児童クラブでは見守り活動を行い、高校生たちも参加して、子どもたちはとても喜んでいました。

子ども家庭センターでは、子育て支援室の松田美愛子さんから、支援の状況とボランティア活動の説明を受けた後、手づくりのおもちゃ作りを体験しました。

参加者から、「あまり知識が無いまま子どもと接していたが講義をへて少し変わった」、「これからのボランティアの目標が明確になった」といった感想がありました。

子育て支援に必要な知識や現況を学び、見守り活動などを体験することで、子育てボランティアに関心を持ってもらう講座。4日間のコースに、10～60代の15人が参加しました。

仁愛女子短期大学准教授の乙部貴幸さんから「子どもの発達の道すじと子育て環境」について、(認特)福井県子どもNPOセンター代表の谷内由美子さんからは、「チャイルドラインからみえてくる子どもの姿」について学びました。





## 台湾の高校から福仁会病院へ 福井商業高校の交流から生まれたコロナ支援

1月28日国際経済科の生徒が、台湾の姉妹校から届けられたマスクと、メッセージカードを福仁会病院に贈りました。

生徒たちは台湾から届けられたマスクを見て、「国を越えて同じ高校生が日本を心配してくれて嬉しい」と感謝の気持ちでいっぱいになり、総合ボランティアセンターに相談して学校近くの病院に贈ることとなりました。

メッセージカードには、日々頑張ってくれている医療関係者の皆さんへの感謝がイラストとともに書かれていました。



## 県民社会貢献活動知事奨励賞を受賞！

令和2年度福井県県民社会貢献活動に関する表彰で、地域社会に貢献している福井市の二つの市民活動団体が知事奨励賞を受賞しました。2月27日福井県国際交流会館で、知事から表彰状が授与されました。

特定非営利活動法人

### 自然体験共学センター

2004年設立で16年を超える活動を継続。廃校となった小学校を使用した福井市上味見生涯教育施設を拠点に、周辺の豊かな自然や歴史のフィールド、伊自良温泉などを活かし、住民と協働しながら、川遊びや農作業体験、森林保全体験、歴史学習など、多様な体験学習活動に取り組んできました。令和元年度は、県内と関西地方の青少年をおよそ1,100人を受入れるなど、青少年の健全育成と地域のまちづくりに貢献しています。



ボランティアグループ

### ふくいおもちゃ病院

2013年に設立し、永年の経験や技術を活かし、おもちゃ修理を通して、子どもたちにモノの大切さとメカニズムの面白さを伝えています。福井県総合グリーンセンターで、壊れたり使えなくなったおもちゃの修理イベント「おもちゃ病院」を定期開催している他、図書館や公民館、ショッピングセンターなどの商業施設、県環境ふくい推進協議会のリユースイベントなどで活動。令和元年度は、22回開催し683件のおもちゃ修理を行いました。



自分にできることを、見つけよう！

### 福井市総合ボランティアセンター

#### 総ボラではこんなことができます

- あなたにあった活動が見つかります！
- ボランティアの情報がわかります！
- 講座や交流会に参加できます！
- 交流ひろばや研修室がつかえます！
- チラシやポスターが印刷できます！

〒910-0006 福井市中央1丁目2-1ハピリン4階  
福井市市民生活部市民協働・ボランティア推進課  
TEL:0776-20-5107 FAX:0776-20-5168  
E-mail:volunteer@city.fukui.lg.jp

- 開所時間 火曜日～金曜日 9時から21時  
土曜日・日曜日 9時から17時
- 休所日 月曜日、祝日、年末年始  
(祝日が土日の場合は開館)

福井市ボランティアネット



Twitter やってます！

